

1. 評価結果概要票

[認知症対応型共同生活介護用]
平成22年3月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0172300121
法人名	神恵内村
事業所名	神恵内村認知症対応型共同生活介護事務所高齢者グループホームかもめの家
所在地	〒045-0301 古宇郡神恵内村大字神恵内村10番地 (電話) 0135-76-5616

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成22年2月26日	評価画定日	平成22年3月18日

【情報提供票より】(平成22年1月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成10年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤1人,	非常勤7人, 常勤換算4.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	2階建ての	～ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000円	(4から9号室は12,000円)	
その他の経費(月額)	光熱費、日用品9,500円 (10月～3月は9,600円)		
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	260円	昼食 260円
	夕食	260円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(1月26日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	7名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.1歳	最低	79歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	村立神恵内村診療所。神恵内村歯科診療所
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

村の中心部に位置し、古宇川を渡った三方を山に囲まれ眺めの良い場所に立地している。役場を始め、いくつかの公共機関が付近に集中しており、事業所と同じ建物内の1階には村営診療所あり、また近隣の保育所に通う為の人が行き来しているため、人通りは多い方である。雪が溶ければ、利用者が外に出て職員と一緒に畑仕事をしている姿が見られるだろう。開設から約11年経過した当事業所は、村が開設し民間の企業に運営を委託している村営の事業所である。村で唯一のグループホームとして、神恵内村住民だけではなく、付近の町村からの入居者も多い。職員に移動は少なく、なじみの関係の中で、利用者はそれぞれのペースを大切にしゆったりとした暮らしを送っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘された「馴染みながらのサービス利用」に関して、見学や短い時間の滞在などのニーズに応える体制が整った。災害対策では、十分な成果を挙げられていない。夜間時等起こりうる状況を想定した訓練など、具体的な取組みに期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の項目の内容の把握に、その趣旨とは異なる理解が見受けられた。全職員で内容の把握についてもう一度確認して欲しい。自己評価は全員が参加して作成している。外部評価で問題に挙げられた点は、改善に向けての取組みも行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	社会福祉協議会長、民生委員会協議会長、診療所医師、役場職員、家族会代表を構成メンバーとして隔月開催の予定だが、今年度の開催は5回にとどまっている。必要事項や問題点を報告している。会議で話し合われた内容を問題点として意識し、改善計画を立てて行動する。その結果をもう一度会議に上程するというサイクルには至っていない。今後に期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	訪問した家族、電話で報告をした家族から事あるごとに意見や苦情を有無を尋ねている。しかしながら今のところ、家族から具体的な苦情などは挙がっていない。苦情・意見を述べやすい方法を工夫するよう取組まれることを望む。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	神恵内村が設置者であるというメリットを生かして、地域の村祭り、祭礼に参加、教育委員会主宰の老人会「とどまつ学級」に週一回通うなど、地域との交流を深めている。今後は事業所主催の催し物を行って、住民や子供達を招くなどの、双方向での交流を進めることを期待する。今後は、事業所の様子を住民に見てもらおうなど取組まれたい。

2. 評価結果 (詳細)

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組み を期待し たい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「信頼」「安心」「交流」の3つを事業所独自の基本理念としている。「交流」とは、地域社会とのつながりを密にすること、家族との絆への支援を意味しており、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくことを意識した独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月一回のスタッフ会議での話し合いを通じて、基本理念を掘り下げて理解するよう日々勤めている。更に、全職員が理念の意義を具体的に理解し、共有し合い判断を下す際に基づき行動できる等、理念が具体的基準となしうることを期待する。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	村祭りや祭礼、秋には近くの浜でのサケの引網漁を見物するなど、地域の一員として積極的に行事に参加し、また利用者もそれを楽しみごとの一つとしている。更に、隣の施設で行われている老人学級に、月一度参加して、地域のお年寄りとともにひと時を過ごしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の項目の意味の理解に趣旨とは異なる理解が見受けられた。現状の把握や問題点の把握が十分に出ていないところがある。理解に努める必要がある。	○	正確な現状把握が問題点の抽出に繋がる。よって、職員全員での改善計画の作成とその実行に勤めることを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月開催の原則がほぼ守られている。事業の活動内容・運営上の課題を報告し、多様な議論が交わされている。多種多様な委員が出席されていることを活かし、事業所だけでは対応が難しい問題とともに考えてもらうなどの機会として捉えて欲しい。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議には必ず村の担当職員が出席している。また、連絡や文書交付の為、職員はたびたび事業所を訪れている。現状では、それが必ずしもサービス向上に繋がっていない。	○	左記のメリットを活かして、情報収集能力に優れるなどの行政の能力を十分活用して、サービスの質向上に繋げることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	遠方に暮らす入居者の家族に対しては、電話で生活の様子、心身の状態を報告している。事業所の様子やイベントは隔月で「かもめ通信」を送付して家族に知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所契約時に苦情を受け付けていること。その方法などを丁寧に説明している。家族との面談や電話で話すときに、苦情などの有無をさりげなく聞いている。更に、潜在的な意見を広く聴取することができる工夫への取り組まれることを期待したい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度、離職を含む異動はなかった。今後、職員が出産のための休暇をとる等も考えられる。入居者の不安をなくするため、事前に十分な説明を行うなどの対策を職員間で話し合っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として月に一度、自主的に「抄読会」を開いている。交代で職員が自分でテーマを決め、自ら情報を集め勉強し、他の職員に発表・議論をする。職員のサービス向上への自立性と積極性が養われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者は他町村にあるため、相互の研修は難しい状況にある。村内の福祉関連施設との連携による、ネットワークづくりや研修を行っている。他町村のグループホームとの研修会やネットワーク作りは、事業所レベルでは組織するのは困難である。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者やその家族の見学や一時的な滞在を受け入れることが可能な体制が整えられている。事前に入居希望者とよく相談して、その人にあった対応の仕方、馴染みの関係づくり及び雰囲気に馴染める雰囲気づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日常の会話の中で入居者から料理の仕方や味付け方法を聞いて、それを料理に活かすこともある。それぞれ入居者が、生活歴から修得した考え方に感嘆し、参考にし支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴や外出など、入居者の自由な決定を促しかつ支援するとともに、入居者の意向に添うようにしている。すぐには応じられない場合であっても、意思や意向を大切し時間をかけても対応する体制である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を十分に聞き取り、面談や電話による家族からの意向を適宜踏まえて、ケアマネジャーと職員がともに議論をし、アイデア出し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、全入居者に対するカウンセリングを実施して、2カ月ごとのモニタリングをもとに介護計画の見直しをしている。状態に変化が見られたときには随時、変更を加えて、これを家族に知らせる体制が出来ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	階下に診療所があり、事業所は既に看取りを数回経験している。若い職員は、個人の尊厳・地域密着のグループホームの職員として、「看取り」に積極的にかかわり貴重な経験としている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	他町村からの入居者も多く、現在、かかりつけ医を利用している入居者はいない。今後、必要があれば適切な医療を受けるための柔軟な対応を準備している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は、職員のシフトを代えるなどして、看取りの時には柔軟な対応をしてきた。職員は看取りに関わり、その経験を積む中で、家族や親しい人に看取られながら死を迎えることの意味を話し合い、各々で考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員が今年度の抄読会のテーマの一つに「入居者のプライバシー」を取り上げた。職員は「入居者の尊厳を守る。不快な思いをさせない。」だけではなく、「自分がそうされたら、どう思うだろう」との視点から常に考えている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間は原則、定時としている。入居者と皆で、一緒に楽しい食事をしたいという考えからである。入居者は個人のペースでゆっくりと食べている。入浴は入居者の要望に応じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のほとんどすべての人が、食事の後片付けに協力している。それぞれが出来ることを、出来る範囲で協力している。食事の後片付けだけではなく、他にも入居者それぞれが出来ることを探し出して、仕事を依頼して、それが入居者の自信に繋がるよう支援していただきたい。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回の入浴日を設けているが、時間・回数は、入居者の意向にその都度応じている。現在女性入居者だけであるが、常に羞恥心に配慮した支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自家菜園で入居者は、それぞれの役割、できることを行っている。教育委員会主宰の老人「とどまつ学級」に出かけ、近所のお年寄りとともに色々なことを楽しんで行なっている。興味や関心のある事を引き出すきっかけにも繋がっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の散歩の支援援助だけではなく、近くの浜での秋サケ漁の見物など季節感あふれた催しに参加している。また近くにある温泉へのバス旅行を定期的に行っている。バス旅行の途中では公園で花見をするなど季節感を取り入れた外出支援の工夫を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。食堂の横を通らなければ外には出られない構造になっているため目が届きやすい。食堂にいる職員等が注意払うことで安全に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消防署の指導による昼間の火災を想定した避難訓練を実施する。職員や村の担当職員を交えた緊急連絡網を作成している。	○	具体的にどのような火災が想定されるか起こりうる状況を把握した上での訓練や夜間時等あらゆることを想定した具体的な訓練への取組みに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	村営施設の栄養士の指導を受けて1500カロリーを目安にバランスの取れた食事を入居者に提供する。水分は全員に最低でも900ccを摂取するよう配慮されている。		
2、その人らしい暮らしを支える生活環境作り					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	かつて病棟であった建物は採光が十分に考えられており、明るい空間が保持されている。不必要な物音は排除された。居間のテレビの前の和風の空間や廊下に置かれたベンチを入居者が其々自分の憩える空間として利用している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は簡素であるが、比較的広めに取りられている。入居者は長年使い込んだ家具や日用品を持ち込み、その人らしい居心地の良い空間を作り出している。		

※  は、重点項目。